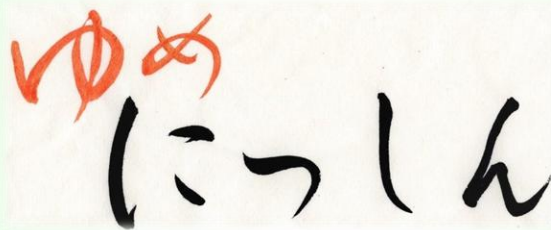


日 新

苟日新 まこと ひ あら
日々に新たに
日 日 新 ひ び あら
日々に新たに
又 日 新 また ひ あら
又日に新たなり
出典 「大学」

日新地区だより 73号



「ゆめ・にっしん」は、平成18年2月創刊。「日々に新たに」ゆめある日新まちづくりの一翼を担い、地区文化の向上を願って今日に至っています。

発行： まちづくり日新 広報部会
福井市文京5丁目1-8 日新公民館
発行日：令和7年（2025年）3月11日

みんなが困った「令和の米騒動」



昨年8月スーパーから米がなくなり価格が高騰し始めた。令和の米騒動である。当初、政府は猛暑のせいで生産量が減っているから、インバウンドの利用で米の需要が増加しているから、国民が南海トラフ地震情報が初めて出されたことで不安を感じ米の備蓄に走った（大地震なので支援物資がなかなか届かないといわれているので米を確保）などを理由にしていた。これは1973年のオイルショック時のトイレットペーパー買い占めと同じようである。

また、9月は米の収穫時期で8月は在庫が一番少ない時で、台風に備えた買いしめの動きなど重なった。しかし、これら原因で米の全体量が減ったとしても、政府による計画許容量の数パーセントに過ぎない。最も大きい理由は、減反政策によって生産を減少させていることが根本にあるように思える。

平成の米騒動の原因も冷夏で米の出来が悪かったと言われているが、根本的な原因は減反であった。当時の潜在的な生産量1400万トンで減反で1000万トンに減らしていた。

通常なら、医療のように国が財政負担をすれば安くサービスの提供を受けられるが、減反は毎年3500億円の財政負担をして農家に補助金を払って生産を減少させ、消費者に高い米を買わせるというものである。財政負担をして、なお消費者負担をも高めているのである。減反を止めて輸出していれば、食料危機の時には輸出していた米を国民にまわして食べればよい。輸出は無償の備蓄となる。これで毎年500億円使っている備蓄費用が要らなくなる。輸出が行われれば、国内価格は輸出価格よりも下がらない。輸出価格は最低支持価格の役目を果たす。

店頭からコメが消え米価が過去最高値に騰貴しても、農林水産省はコメ不足を認めない。米価は新米供給後には下がると言っていたが、むしろ上がる。すると農協の集荷量が低下して他の業者がためこみ、あるはずの21万トンが流通から消えたからだと言われ、その後21万トンを3月に備蓄米の放出を行うと言っている。何が何だかわからない。



ロシアによるウクライナへの侵攻の終結？

あえてロシアとウクライナの戦争ではなくロシアによる侵攻と言う表題をつけさせてもらった。そもそも、ロシアはなぜにウクライナへ侵攻を始めたのか？

ゼレンスキー政権は親欧米でNATOへの加盟を目指している。それに対し、ロシアは「欧米からの脅威からロシアを守るために、ウクライナのNATO加盟を阻止することは、正当防衛である」との主張だ。昨年までは欧米諸国によるロシアへの経済制裁やウクライナ政府への支援があった。皆さんもご存じのように、米国でトランプ氏は大統領になるや否や「ウクライナ戦争を終わらせる」の発言。これは称賛する。



しかし、その見返りとしてウクライナにレアアースの提供を申し出た。まるで、水戸黄門に出てくる悪代官である。そして、ウクライナ抜きでの終戦宣言を計画している。これも、今も北方領土問題として残っている「日本抜きでのヤルタ会談」と同じである。本当にどのような形でウクライナへの侵攻が終わるのか？

世界の子供たちの目があることを忘れないでほしいものである。

まちづくり日新広報部会 講演会「紫式部と福井のつながり」

1月18日(土)13:30～ 広報部会主催の講演会が後藤ひろみさんを講師に迎えて開催されました。朝から青空が広がる好天の中を参加の皆さんが来られて会場の2階和室は特別に用意したす席が満席になる盛況。定刻には今日の主役、後藤ひろみさんがテーマにちなんだ紫の地に手描きの竹をあしらった和服で登場されて 紹介のことばも惜しむように早速平安絵巻の世界へと語りが始まった。幼くて母を亡くし父が時が越前国司として国府へ赴く時に同行したとされる紫式部。この時の実際歩いたと思われるルートを、残された歌で推測しながら後藤ひろみさんが自ら辿った道の写真を映像資料として説明があり、いきいきと1000年の昔がよみがえるように迫ってきました。



この越前で作られる和紙が縁となったのか後の「源氏物語」の執筆につながっている。「歴史には匂がある！」大河ドラマ「光る君」による大国越前の余韻が残るタイミングなので 後藤さんの軽妙な語りに参加の皆さんが酔いしれた1時間半、熱い質問にもしっかり応えて下さり大拍手のうちに閉会となりました。



※後藤ひろみさんは福井市に生まれ

2010年、「ふくい歴女の会」を結成する。

2014年、県立福井博物館に「歴博茶房ときめぐるカフェ」を開業する。

2017年からポプラ社のコミック版日本の歴史を担当し、現在までに「紫式部」など15作品を出版している。

2023年、福井県歴史活用コーディネーターに委嘱され活動中である。

広報部会 友田 和恵

変な1・2月の天気 桜と雪が……

今年の1月は、冬型の気圧配置が少ないために、寒気の影響があまりなく例年になく暖かい。特に中旬からは雪が少なく雪かきをする必要もない日が続いた。1月18日の広報部会主催の講演会の日はお陰様で雲一つない快晴で多くの方が公民館に集まり講演会は盛況であった。



1月の末日の午前中に足羽山を散策すると、まだ冬だというのに足羽山トンネル登り口の1本の桜の木に数個の花が咲いていた。2月に入ると雪や雨の日が続いた。巷では全ての物の価格が前年比を大きく超え、特に米の価格が1.5倍に高騰し政府は備蓄米の放出の策をとることになった。私事であるが16日にフェニックスプラザにて「星に語りて」の映画上映を企画したところ、この時も晴天に恵まれ、日新地区からも数名の方にきていただいた。そして、翌日からはJPCZが日本海上空に停滞し、各地に大雪警報が発令。

福井でも晴れ間を見ての除雪作業「若いもんがえんので、私ら老体に鞭打ってやっています。ほんと腰が痛いわ」と嘆いておられた。すると除雪車が登場し、運転手さんが「道の真ん中に雪出してや、全部持って行ってあげるで」と声をかけた。早速道路端に先ほど積んだばかりの雪を再び道の中央に戻した。「ありがとう」と声をかけるが、聞こえず。みんなで深々とお辞儀をすると、除雪車の窓からにっこりして去っていった。後日からは気温が上がり、春がすぐそこに近づいているようである



「星に語りて」

2011年3月11日に発生し、津波や福島第一原発での災害が起き、18,000人を超える死者・行方不明者を出した「東日本大震災」を取り上げています。震災後、被災した障害者の知られざる実情や支援者の活動の実話を基に描いた人間ドラマである。



JPCZ

日本海寒帯気団収束帯

Japan sea Polar air mass Convergence Zone
冬に日本海で、寒気の吹き出しに伴って形成される1,000km程度の収束帯のことで、この収束帯に伴う帯状の雲域を、「帯状雲」と呼ぶ。



<予想される向こう3か月の天候>

福井地方気象台から

向こう3ヶ月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです
向こう3ヶ月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

3月 天気は数日の周期で変わるでしょう。

気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

4月 天気は数日の周期で変わるでしょう。

気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

5月 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

気温は、平年並または高い確率ともに40%です。



3月初旬のミニ知識

★ 3月は土手に鮮やかな緑色をしたヨモギが出始めます。

独特な香りで春を満喫できるヨモギは和菓子の「草餅」に使われています。漢方では「艾葉(がいよう)」と呼ばれ、止血薬として使われています。

他にもアレルギーの改善、血行促進、貧血防止、コレステロール値の正常化、腸内環境の改善など沢山の効果が期待されています。



★ 3月3日の雛祭りでは食べられる雛あられは、関西と関東で違いがあります。



関西は塩辛くて関東は甘いようです。

関西の雛あられは、原料はもち米で醤油やエビが入っており塩辛いです。

それに比べ関東の雛あられは、うるち米が原料となっており砂糖がまぶされていて甘いです。

★ 3月の卒業式で歌われている「蛍の光」ですが、海外ではお祝いの歌として歌われています。

誕生日や結婚式、新年を迎えた時などにお祝いを込めて歌います

環境部会

底喰川の今後

藪内 謙一

底喰川は日新地区でのシンボルとして位置づけられています。福井市街地を流れ、その一部が日新地区を通っています。美観のために、多くの「ミソハギ」を高水敷に植えています。その「ミソハギ」を知っていた



だき、観賞するための行事も行われています。しかし、大雨時の川の冠水で「ミソハギ」も含め水没状態になります。その場合、多くのごみが集まり水の引いた後はそのゴミがその場に残るためそのゴミの回収及び高水敷の雑草除去が主な作業となっています。

昨今、里山保護が言われています。底喰川は里山とは言えませんが、人と自然が共存する生態系と考えれば共通点もあります。高水敷は、草木が生えた土壌のため、「多様な動植物の生息・生育の場」として川に生息する魚、鴨、鷺などの鳥、多種の昆虫などが見られます。生物多様性の保全からも、底喰川の高水敷の手入れは欠かせません。「ミソハギ」を育てることはその一環であり、将来において憩いの場所となるように綺麗な底喰川を残していきたいものです。そのためにも多くの方に、底喰川に関心を持って頂いて清掃作業に参加していただけたらと思います。



大雪寒波警報が第 1 次、第 2 次と長きにわたって出されている状況の中で、住民の皆さんお変わりなくお元気でお暮しでしょうか？ 私たちのまちづくり交通部会も組織誕生以来、令和 7 年にて 15 年目を迎える状況にあります。これひとえに地域住人の協力のお陰と心より感謝を致しております。然しながら決して順調なる展開であった訳ではありません。特に新型コロナ禍期間のおよそ 3 年数か月間は最大のピンチではありましたが、ここにきて昨年の 7 月よりやっと基準値達成とその実績の獲得に至り現在まで約 7 ヶ月に亘って 100% 以上の業績結果内容に到っております。

さて今後の対応につきましては 3 月決算及び新事業年度 4 月以降の計画について

3 月中にて、従来の京福バス回数券は使用できなくなります。

3 月にて、ドンキーへの無料乗車促進企画は終了とします。

3 月中にて、時刻表・ルート表のカatalogを 15 日前後に全世帯に配布します。

4 月より、ルートの一部が改正されます。（新規バス停、廃止バス停もあります）

4 月より、部会員券制度のスタートを実施します。（1,000 円以上）

従来は会員に対し 700 円にて 12 枚券販売を 10 枚券と変更する。

（財源が厳しい状況にてご協力をよろしくお願い致します）

第 3 次本格運行の査定の 9 月までも残り僅かです。

是非とも各住民の協力を頂き、また、我々役員一同も精いっぱいにして努力を重ねます。

応援、後押しもよろしくお願い致します。



今年度の「ゆめにつしん」を振り返りながら、まちづくり日新の 3 部会の催しを考えてみた。

今年度は働き方改革での就業時間制限のためにバスの運転手不足が始まった。当然、我が町の「さんさんバス」にも影響が心配されたが、交通部会の皆さんの知恵で乗り切った。しかし、令和 7 年の本格査定が迫っている。何とかさんさんバスの運行の継続を願う。そのためには「さんさんバス」に乗ることである。

底喰川の清掃は猛暑続きに悩まされたが、関係者の熱意で「ミソハギ花まつり」も「公民館まつり」も大盛況に終わった。公民館まつりの参加者が多かったのは敬老会と同日開催したことでの効果かも知れない。しかし、コロナ感染者は未だに増えたり減ったりとはっきりしない中で 50 周年を迎える。今年の祭りの在り方を今から考える必要があると思う。

今年も皆さんの協力で年 4 回の「ゆめにつしん」の発行が無事に終了？（お詫び）がありますよ。講演会は開催場所（和室）を考慮しての開催ながら 50 名集客、皆さんの協力のおかげです。

お詫び

広報部会より

72 号 4 頁の広報部会の記事「日新地区でまた自治会が消滅するところ現れる」と書きましたが、この自治会は取材 1 週間後には継続することに辛うじて踏みとどまりました事を報告し、お詫び申し上げます。

ただし、令和 7 年度だけの限定らしいです。この自治会は高齢化が進み加盟世帯が数軒しかなく、毎年の自治会長が限定されてしまっています。他に相談すると「隣と合併すればよいでしょう」と言われるそうです。「合併すれば世帯数が増え、もし会長になったときに、その仕事を全うすることは不可能、みんなに迷惑がかかるだけだ」と今年の自治会長は言われます。

少子高齢化による課題、これから他の自治会でも起こってくる問題でしょう。

